

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に意見用紙でいただいたご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
建設位置について	
<p>深い緑の中に黒い建物なんて、センスがない。子どもらのふるさとこわさないで！！</p>	<p>2009年実施の「博物館に関する意識調査」の結果等を踏まえ、2010年から「町田市の博物館等の新たな在り方構想検討委員会」において検討を進めました。2012年には博物館機能の再整備に向けた調査・検討のなかで、建設候補地に求められる条件として、以下のとおり整理を行いました。</p>
<p>本当は工芸美術館はがけ地でなく、平地に建てて、工房は今のままが良いと思います。</p>	<p>(1)「美術ゾーンの形成」を図るには、国際版画美術館と近い場所が望ましい (2)文化芸術に親しむ場として緑に囲まれた静かな空間が望ましい (3)市の玄関口である町田駅からのアクセスがよいことが望ましい</p>
<p>原存の駐車場に工芸館を建て版画館との通路で結ぶ。町田荘跡を駐車場にすれば良いのでは？</p>	<p>2014年の「(仮称)国際工芸美術館整備基本計画」において、国際版画美術館との相乗効果を高めるため、国際版画美術館と隣接する2ヶ所(国際版画美術館北側、町田荘跡地)を建設候補地とし、検討を行いました。</p>
<p>「緑豊かな中に」と言いながら、多くの建物を建てるのは矛盾している</p>	<p>多くの方にご来館いただき地域を活性化するという視点に立ち、町田駅周辺を中心市街地からのアクセスや回遊性の点で、優位にある国際版画美術館北側を(仮称)国際工芸美術館の建設候補地と決めました。</p>
<p>「町田市景観計画」とはまったく逆方向に全てが運ばれています。工房を移す必要がどこにあるというのですか？何もかもがこわれてしまいます。集客目的だとしたら他の場所にして下さい。</p>	<p>美術館に至る道のりについても、もみじ園など既存の公園の魅力再認識するための演出ができること、2つの美術館とそこで働くスタッフにとっても合理的な動線につながることなどの論点を重視した結果、現在の案がそれを生かせると同時に、(仮称)国際工芸美術館と公園の国際版画美術館とのつながりを強めることができると判断し、現在の建設位置を計画しています。</p>
<p>建てる予定の場所をかえる(せりがや公園ではない場所)。</p>	<p>2015年に検討した前回の基本設計については、近隣住民の方々から、「圧迫感を与える」「建築配置について、より斜面側に寄せることはできないか。」「子供たちが遊んでいる水場のスペースが狭くなるのではと心配している」といった心配のご意見をいただきました。そういったご意見も踏まえて、現在の計画については、「周辺への住宅に配慮すること」、「子ども達が遊んでいる谷戸の景観を大切にすること」、「緑の中にある国際版画美術館の雰囲気壊さないこと」などを考えて、中心市街地からのアクセスや回遊性、国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館の一体的な運用、芹ヶ谷公園とのつながりなども含めて、国際版画美術館北側の谷戸にある既存の樹木を残しながら、斜面地に配置する計画といたしました。</p>
整備計画、費用について	
<p>この歴史のある版画の芸術と深い緑を500本も切り倒して40億(市民の税金、私たちの血税)を勝手に使う事は許しがたい。</p>	
<p>時代が大きくかわるなか、見たことがあるような一見よさそうだけれどぺらぺらな箱物に巨額の税金をかけることに町田市はかじをきるのかと思うと残念な気持ちです。とはいえ完成したら見に来ます。</p>	
<p>私たちの血税をもっと有意義に使ってもらいたい。</p>	
<p>本日はお疲れ様でした。近隣住民は反対、企業も二の足をふむのが現状です。今こそ計画を見直すいい機会です。市民と市役所が協力して、新たな計画を作成しましょう。</p>	
<p>工芸館の見直しを望みます。反対が多くあり、市民の民意によりそっていないのは明らかです。市民の納得いく形にして、気持ちよく暮らし利用していけるように願います。</p>	<p>芹ヶ谷公園「芸術の杜」プロジェクトを通じて、訪れる人々がそれぞれに充実した時間を過ごすことができる、とりわけ子どもたちが「楽しかった」「また来たい」と思う体験ができることを目指しています。そういったまちづくりを実現することで、市民の皆様のまちへの期待や希望、愛着を高めていくことはもとより、市外からの憧れや注目も集めていきたいと考えております。</p>
<p>市が体験棟の話の聞こえとしても、それ以前のことで、市民の方たちから、たくさん不満が出てくるという現実、市民の思いと市の進め方に大きなへだたりがあるということです。その現実をきちんと受け止めて、目をそらさないでほしいです。市民も行政も気持ち良く、夢が持てる計画にすることが、将来にわたって、各施設や公園が豊かに育っていくことにつながります。そういう形を取っていくことが、現市長にとっても誇りになると思います。</p>	<p>厳しい財政状況にあっても、10年、20年先を見据えて、市民の皆様の明るい希望やまちの愛着につながるプロジェクト、市外の方々の憧れとなるようなプロジェクトには果敢に投資をしていくことで将来にわたって人々を惹きつけ、事業者を惹きつけ、未来へつながる消費、投資を呼び、まちに活気をもたらします。多くの人々から「選ばれるまち」として、町田というブランドを高め、将来世代につないでいけるよう取り組んでまいります。</p>
<p>版画の教育の熱心な信州の教育を受けて来ました。アトリエ利用者ですが、意見を聞くと言いつつ呼ばれてはいません。市民と一緒に行政を動かして行く町田市になってほしい、恥ずかしいですよ、今の町田は…。市の職員として、今の担当を心から楽しんで喜んで仕事できていますか？税金を使うのですよ！市民は生活はとても困難(財政も、環境も)です。実態が見えますか？</p>	
整備工事について	
<p>この辺りは宅地造成の際、必ず地下水が出ます。地下水による地盤沈下などのおそれはないか心配です。</p>	
<p>版画工房の建設場所の上には、工芸美術館の建設場所の土砂を積み重ねることであるが、土砂を積み重ねた場合には、土の安定性を考慮して、2～3年は工房の建設を待つべきである。2～3年待つのであれば、工芸美術館の建設を基本を見直すべきである。</p>	<p>アート体験棟は現地盤を切土して、前面道路と同じ地盤高さで建設予定となります。背面の盛土造成地を背負う形態での建築となるため、土圧や排水等を十分に検討し、土地及び公園利用者の安全性に配慮した建築を行っていきます。</p>
<p>大変ですが問題の無い様をお願い致します。事故のない様をお願いします。</p>	<p>工事の時間帯については、作業時間として午前8時～午後6時を予定しており、作業時間の前後30分程度は準備片付けを行う予定です。騒音・振動に伴う周辺の方への配慮としては、法律の規制を遵守の上、低騒音型や低振動型の建設機械の使用や、早朝や夜間の作業は行わない等、周辺の方々にも配慮してまいります。</p>
<p>今の国際版画美術館は建設当時の館長がどうやって設計建築したかお話を伺ったことがあります…当時講演会がありました。その時に、版画美術館はこの美術館が日本で始めてで国際版画美術館と称すると館長さんからお聞きしました！その時には素晴らしい美術館が出来、うれしく思ったものでした。その時は箱根の造園業者が入り樹木も園内もステキでした。その時の感動が失われること無く新しい工芸館が設計される事を祈ります。建設途中に学校へ通う子ども達が交通事故にあうことの無いようにして頂きたいです。ただ出来上がった建物を見て、がっかりすることの無いようにお願いしたい。</p>	<p>町田街道からせりがや会館までの道路は、搬出入のための工事車両が通行しますが、歩行者の安全確保と騒音、振動、粉じんなどの抑制のために、誘導員を配置し、徐行運転を徹底します。また搬出入の時間についてですが、通学の時間帯に工事車両ができるだけ通らないようにするなど、近隣住民への騒音等の配慮のため、早朝や夜間は、極力搬出入を行わないようにしたいと考えております。</p>
<p>美術館などを建てる工事をもした時、大きなダンプカーなどがたくさん通り、歩いている人があぶなく、そう音被害もあるのではないかとも思った。</p>	

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に意見用紙でいただいたご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
<p>自然環境について</p>	
<p>木の伐採は最小減にしてほしいです。</p>	<p>芹ヶ谷公園は、都市公園法に基づく都市公園であり、緑を活用して人が活動する場所として位置づけています。市街地の中の都市公園として相応しい、明るく見通しの良い二次林とすることや、多くの方に公園を活用していただく施設整備の視点から、一部区域の樹木の剪定や伐採をすることは、今後必要であると考えています。</p> <p>今後も市街地の中の緑にふさわしい林、見通しの良い形にできるよう、芹ヶ谷公園の自然環境に配慮しながら整備を計画してまいります。</p> <p>(仮称)国際工芸美術館の整備に際しても、建築物の配置や工事に伴う樹木の伐採を最小限度に留めるとともに、可能な限り補植を行います。引き続き、芹ヶ谷公園の魅力である自然環境の担保と施設整備のバランスを考慮しながら、芹ヶ谷公園芸術の杜“パークミュージアム”の整備を進めてまいります。</p>
<p>木や野生動物や土が文句を言わないのをいいことに人間都合ですがすがしいほどに自然を破壊することにいたみを感じないの难道うかと思います。</p>	
<p>ナラ枯れ、根上がりの説明がありました。説明内容以外にも樹木や木が健康であれば樹液で樹木内部に入った虫が死に、土が良い状態であれば根は深くはれます。多面的に実状をとらえて頂きたいです。</p>	
<p>もうこの公園・版画美術館をそっとしておいて下さい。自然にてをつけないでください。</p>	
<p>人と緑が出会うというコンセプトと、樹木を500～1000本伐採することどうしても矛盾がある。</p>	
<p>町田市立国際工芸美術館を今、予定している場所に建てると、たくさんの木が切られてしまい芸術のことはもっとよくなるが、自然は評価も少なくなってしまうのではないかと思った(カブトムシなどの生物も工事で死んでしまうかもしれない)。自然を大切に！！</p>	
<p>芹ヶ谷公園やエレベーターについて</p>	
<p>駐車場がある側からの上り下りもあるので反対側にもEVがほしい。</p>	<p>冒険遊び場前駐車場からのバリアフリー経路としては、デッキが整備されていますので、そちらをご利用ください。</p> <p>今後も引き続き、市民から要望を受ける機会を広く設けるとともに、地域住民及び関係諸団体等との理解を深めることに努めながら、パークミュージアム整備事業を進めてまいります。</p>
<p>芹ヶ谷公園はかなり広い領域を占めているので、引続き有効な開発に努めて頂きたい。また、監視カメラ、街灯なども含め、安全の確保に十分に留意され度。</p>	
<p>要望：都市公園区域内の歩道整備について 場所：町田第二小学校裏門(プールや体育館が面している道路)～町田第二中学校へ続く通学路の内、公園内の通路。二小と公園の間にある道路(中央に排水施設がある)？の終点から公園内に入ると木杭等で作った階段を降りていき、擁壁と擁壁の間にある階段部分までの区間 主旨：二中へ向かう児童がよく、この道路を使っているが、公園内の道が段差があるため、自転車等が不便である。そのため、段差を無し、舗装するようなスロープを整備していただけないか。この説明会とは別件ですが</p>	
<p>運営・版画工房について</p>	
<p>芹ヶ谷公園から“パークミュージアム芸術の杜”となることで、管理はどが行うことになりますか？指定管理が入ることで、市民のための公共の福祉という目的から外れ、利潤追求ばかりが目的にならないか心配をしています。</p>	<p>工房については、国際版画美術館の1987年の開館以来、「鑑賞」「創作」「発表」の機能を一体的に提供するという役割を担ってきました。版画に加えてガラスや陶磁器などの制作もできる新しい工房と二つの専門美術館とを密接に連携、一体化させることで、これまでの役割をより発展・継承させるため、町田荘跡地に(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟として機能を移します。</p> <p>また、「町田市文化芸術に関する市民意識調査」では、「文化芸術に親しむ市民が増えるために、どのような市の取り組みが必要だと思うか」という問いに対して、「気軽に親しめる・楽しめる場づくり」が最も高く(47.7%)、次いで「公共施設を利用しやすくする」(30.4%)、「体験や触れる機会の充実・提供」(30.0%)だったことなどから、(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟が、パークミュージアムへの玄関口であり、公園来園者、施設利用者、周辺地域の方々などを始め、パークミュージアムに興味を持つ全ての人々へ開かれた場所となり、これまで以上に「自分も工房を利用してみよう」「自分も芹ヶ谷公園に繰り出して何か新しいことをやってみよう」といった興味・関心・感動のきっかけづくりができる空間を目指しています。</p>
<p>いくらアート体験棟で子供の体験の場と工房を近づけたとしても、それだけで興味をもってもらえる場になるわけではない。運営の仕方の問題。さらに言えば現版美のままでも運営方法次第で子供や市民にさまざまな体験を提供できる。</p>	
<p>体験を提供できない理由を建物に転嫁するのは職員の責任放棄。そんなことのために完成度の高い版美の建物を改悪するのは本当にもったいない。議会の前までには本日の意見を公開してくださいね。</p>	
<p>世界に一つしかない版画美術館である。収集、保存、研究+創作 これが一体になっている美術館は世界に唯一です。世界に誇る唯一の国際版画美術館が町田にあるのです。</p>	
<p>版画工房を移すメリットについて、課長が答えられた内容は、現在までの版画美術館が実現してきた内容と何らかわりがありません。今までもロビーでいるような体験活動が実施され、版画工房で専門性のあるものを見られました。つまり同じことをやるのに、お金と時間をかけるというのは逆にデメリットと感じます。いつも、今までの美術館が古く新しいものを作ると言うが、今までの歴史を知ろうとせず、リスペクトもなく、新しいものを作った気になっているのは、ある意味こっけいで関わってきた人たちにとって、本当に悲しく宝を失うような思いがします。</p>	
<p>市立博物館について</p>	
<p>①市立博物館(現在)の立地は、日本に2ヶ所しかない縄文時代、弥生時代の住居跡が一ヶ所に有るといふ貴重な価値がある。それらの出土土器がその地に展示される事に大きな意味が有るといふ事を忘れてはならない。 ②博物館そのものが大変評価の高い建築物である。そういう価値を市民に知らせ興味を誘う努力をした事があるのか？</p>	<p>本町田遺跡公園内の多目的施設(ガイダンスルーム等)は今までどおり存続するため、出土品の展示など活用の検討を行っていきます。</p> <p>市立博物館は、山口文象氏が最晩年に設計した建物で、地域の皆様の愛着があることは認識しておりますが、町田市といたしましてはその役割を終了したと考えております。</p>
<p>中心市街地とのつながりについて</p>	
<p>町と一帯化させるなら原町田大通りからの導線となり、道路計画と一緒に考えてほしい。今回の建物が「エントランス」になるようだが、そちら側は駅からの導線ではない点を考えてほしい</p>	<p>町田市中心市街地まちづくり計画では、中心市街地とその周辺に存在する資源を活用し、連携をすることで、中心市街地の魅力をさらに高めていくとしています。芹ヶ谷公園は、町田駅からも徒歩圏内で訪れることのできる自然豊かな公園であり、多くの市民の憩いの空間です。これまで、「パークミュージアム」の将来の姿をイメージできるような取組みとして、公園と中心市街地との連携を意識したイベントを、市民の方と一緒にを行いました。地域の方々等との連携を強め、つながりを構築していくことで、将来「パークミュージアム」として多くの方に愛される公園となるよう、継続して進めていきます。</p> <p>交通基盤の整備に関しましても、市政へのご意見として承り、担当の部署とも情報を共有してまいります。</p>

意見用紙にいただいた主なご意見と市の考え方

説明会の際に意見用紙でいただいたご意見と市の考え方についてとりまとめました。

主なご意見	市の考え方
説明会について	
これ程、多くの美術家や地域住民との協議もせず、文化・芸術・教育・環境破壊を前提とは版画美術館の改築は、とても残念です。	これまで、(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟の整備について版画工房・アトリエ利用者に計5回ご意見を伺うなど、市民の方、地元町内会自治会などに丁寧に説明し、ご意見を伺い、設計にご意見を反映させながら、進めてきました(※芹ヶ谷公園”芸術の杜”プロジェクト 意見抽出、周知等の取組みについて参照)。
結果ありきの仮対話はやめろ	具体的には、基本計画(案)を策定するにあたり、2021年9月に、版画工房、アトリエの利用者を対象に、ご意見を伺う会を開催しました。その後2021年12月には、いただいたご意見に対する市の考え方を説明する場を設けています。同じ時期の、2021年9月から2022年2月にかけては、工房について検討するために版画や陶芸、ガラス工芸などの専門家にヒアリングも行いました。喫茶けやきについても、2020年6月から個別にご説明する場を設けており、2022年4月には「障がいの有無にかかわらず、誰もが活躍できる共生社会の実現」を施設のビジョンに盛り込むこととしています。その後、2022年5月には、いただいたご意見を踏まえ、基本計画(案)を策定しました。
再整備については賛成ですが、2021年5月、2022年5月の住民説明会に於いて斜面を削って工芸館を建設することに大部分の方が反対していました。住民の意見を聞くだけの説明会なら意味がないと思います。	2022年5月には「芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム整備計画説明会」を開催し、基本計画(案)についてご説明し、市民の方、版画工房、アトリエの利用者よりご意見をいただいています。2022年6月15日から7月14日にかけては、基本計画(案)に対する広く市民を対象としたご意見募集を行い、18名の方から42件のご意見をいただいております。いただいたご意見を反映し、「新しい工房については2つの美術館と密接に連携させること」や「現在の版画工房としての価値を継承・発展させる施設とすること」などを盛り込んだ計画として、2022年8月に基本計画を策定いたしました。
何故このような市民を住民を無視した計画が進むのでしょうか？まず住民が納得することが等一で、そのために説明会を開くのが大事だと思います。これは説明会になってないです。納得できる説明会ではありませんでした！	2022年9月には、基本設計の検討を始め、これまでいただいたご意見を反映し、広場を介して2つの美術館や公園と連携した計画、工房など内部の活動が建物の外から見える計画、また、版画工房とガラスや陶磁器といった工芸体験を行うスペースについては、空間を分ける計画とすることといたしました。その後、2023年2月には各部屋の配置などの基本設計の検討状況について、関係する団体、建設敷地に隣接する町内会自治会などへご説明を行い、ご意見を伺っております。版画工房、アトリエ利用者向けの説明会では、版画工房と工芸の体験をするアート体験スペースの分離や、版画工房の機能の維持など、前回の説明会で出た意見が反映されており、感謝している。また、版画工房の面積が若干広くなると聞いて安心したとのいうご意見もありました。喫茶けやきとは、2023年3月に話し合いの場を設け、基本設計の検討状況について、説明を行い、障がい者が働くために必要な相談スペースについてご意見をいただきました。
このように市民の反対があるにもかかわらず、押し切る、無視する受け流すようなことは、やるべきではない。説明会ではなく「話し合い」でなくてはならない。	2023年5月には、基本設計の概要について、広く市民や関係する団体などに対してご説明を行いました。説明にあたって、2023年2月に版画工房、アトリエ利用者よりいただいたご意見の、「工房の暗室とドライエリアの間に扉を設けて欲しい」「工房内の通路幅を確保してほしい」など実際に工房を利用されている方のご意見を盛り込み、ご説明をしております。また、近隣自治会からは、町田荘跡地の現状がこのままで最良とは思えず、土砂災害も防げる擁壁ができて良い施設ができるのは地元のためになるということや、工事を行う際の安全対策について説明してほしいとのご要望もいただいております。今後、工事説明会の開催を検討していきます。喫茶についても、障がい者が働くための相談スペースのご意見をいただき、配慮をしています。
市民(※)、施設利用者(※)、市の担当者、建築設計者、ファシリテーターで構成した協議会を設置して下さい。参画、話し合いの積み重ねが出来る場を設けて下さい。※希望者は誰でも参加可能	その他にも、芹ヶ谷公園南口エントランスからもみじ園部分に通じるデッキスロープを設置する計画について、自然を大事にしてほしいというご意見をいただくなかで、建設を中止しました。また公園内の高低差を解消するエレベーターについても、当初は国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館をつなぐエレベーターを来園者の方にもご利用いただくような計画でしたが、美術館を通ることなどに対してご意見をいただき、来園者や近隣の方々にとってわかりやすく、自転車も利用可能なエレベーターを新たに設置することといたしました。また、もみじ園の風景をより楽しみたいというご意見に対し、国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館をつなぐエレベーターからもみじ園の緑をより感じることができるよう計画を変更しました。
近隣住民の意見をより反映させて計画を進めてほしい。	今後も引き続き、市民への説明の機会、市民から要望を受ける機会を広く設けるとともに、地域住民及び関係諸団体等との理解を深めることに努めながら、パークミュージアム整備事業を進めてまいります。
その他	
会場の意見、本記入用紙の意見を全て町田市ホームページに公開して下さい。	
今回の説明会を聞き、全体の流れを理解することができた。	この度はご参加頂きありがとうございました。引き続き対話の場やご意見をお伺いする多様な機会を設けてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。
引き続きよろしく申し上げます。	